



『子ども白書』の特徴と魅力

- 特集** その年の社会状況からいちばんの課題を多彩に執筆
- 子ども最前線** 注目すべき子どもの問題を独自の視点で論究
- この1年** 毎年10の領域から専門職・実践者が定点レポート

子どものしあわせを願う
すべてのおとな必携!

保育者、教師、保護者・市民、
医療関係者、司法関係者、
行政職員・議員、
研究者・メディア関係者

特集 子どもの権利条約30年のいま

ともに生きる

NEW! 『子ども白書』かもがわ出版



若い世代と教師に贈る

戦前・戦後の1世紀を生きた
教育研究者からのメッセージ

田中孝彦 編
挿画 津田櫓冬
四六判並製、208ページ
定価(本体2000円+税)



育ててくれた人たち、記憶に残る言葉。
いまの空気に抗う17人の子どもな日々

『子どものしあわせ』編集部 編
イラスト 松本春野
A5判変型並製、112ページ
定価(本体1600円+税)



月刊誌『子どものしあわせ』
巻頭インタビューから
生まれました!

55年の実績のうえに
もつと子どもへ
新しくなってかもがわ出版から

B5判並製、216ページ
定価(本体2700円+税)

〒602-8119 京都市上京区堀川通出水西入 <http://www.kamogawa.co.jp>
TEL 075-432-2868 FAX 075-432-2869

この1冊で、
子どもの「いま」が
いのちと権利の
わかります。

日本子どもを守る会 編

子どもは「生きて」いるか
子どもの権利条約30年のいま

子ども/若者たち・菅原耕太・川上園子・世取山洋介・喜多明人・中嶋哲彦・中嶋みさき・堀尾輝久
インタビュー 前川喜平さん「学校は子どもを権利者として見ているか」

子ども最前線 若者と沖縄・子ども虐待・ひきこもり支援・教師の働き方改革
元山仁士郎 森田ゆり 山本耕平 小川正人

注文書	取扱店	京都・かもがわ出版 注文 FAX 075-672-0035		
	条件	子ども白書 2019	ISBN 978-4-7803-1043-6 C0002	定価(本体2700円+税) 部
	注文	大田 堯 いのちと学びの言葉	ISBN 978-4-7803-1023-8 C0037	定価(本体2000円+税) 部
		わたしも、昔は子どもでした。	ISBN 978-4-7803-1044-3 C0095	定価(本体1600円+税) 部
	お名前 (ふりがな)	TEL		
	ご住所 〒			

かもがわ出版

特集

子どもの権利条約30年のいま 子どもは「生きて」いるか

『子ども白書2019』特集にあたって
子どものrightを世界に呼びかける 森本 扶
本音が話しやすい学校を 『不登校新聞』子ども若者編集部員 皆川小百合
多様な意見を聞くとワクワクする 自由学園高等科 木村 翠
子どもの声を聴くということ 沖縄・ももやま子ども食堂スタッフ 菅原耕太

体罰等の全面的禁止へ建設的対話
第4・5回日本政府報告審査を傍聴して 川上園子

子ども期の貧困化に切り込む
子どもの権利委員会最終所見の意義と特徴 世取山洋介

何が変わり、何が変わらなかったか
国連採択30年、日本批准25年の節目に検証する 喜多明人

子どもの貧困解決と子どもの権利条約
子どもの貧困対策推進法改正の意義と課題 中嶋哲彦

子どもの性的危機と性的発達の保障
ジェンダー平等の視点から 中嶋みさき

子どもの権利と平和への権利
地球時代の視点から 堀尾輝久

子ども最前線

県民投票に取り組んだ沖縄の若者たち
いかに参加のハードルを下げるか 元山仁士郎

子どもの再虐待と性加害をなくす
加害者への回復プログラムが必須 森田ゆり

孤立が進むひきこもり
地域に安心できる居場所を 山本耕平

学校における働き方改革と学校現場からの要望
中教審審議の動向をふまえて 小川正人



〈実物大〉

政策

4月1日
平成30年度障害福祉サービス等報酬改定が適用開始。改定により、放課後等デイサービスの報酬が減額になり、経営難となる事業所も。
4月1日
未就学児の医療費助成に対する国の罰則(公費負担減額)が廃止。その後、各自自治体で、小学校入学前の子どもの医療費助成が広がる。

事件・社会調査

4月3日
「こども食堂安心・安全向上委員会」が、「こども食堂」は全国に2286か所と調査結果を発表。子どもの見守りの場として自治体による補助が拡大。
4月11日
厚生労働省は、2017年10月時点で認可保育施設に入れない待機児童が、全国で5万5433人いたと発表。
4月26日
東日本大震災の津波で84人が犠牲となった宮城県石巻市立大川小学校をめぐり、学校の防災台高裁が教員の避難誘導に加え、学校の防災体制の過失を認める判決。
5月7日
新潟市の小2女児が殺害され、線路内に遺棄された。後に同地区の会社員を逮捕。

子どもをめぐるこの1年

I 子どものいのちと健康

*野井真吾 日本体育大学
*安倍大輔 白梅学園大学
・子どもを第一に考えたスポーツを 安倍大輔
・増える子どもの摂食障害 獨協大学埼玉医療センター 大谷良子
・ネット依存状況が「心(≡前頭葉機能)」に影響 日本体育大学 鹿野晶子
トピック 授業に「立ち机」を導入 田中良

II 子どもと医療

*内海裕美 小児科医
・グローバル化時代の感染症 日本小児科医会理事 関場慶博
・周産期医療の現状とNICUからの母児支援 九州医療センター 佐藤和夫
・特徴をふまえ、子どもの自殺予防を 国立精神・神経医療研究センター 松本俊彦
トピック 成育基本法が成立 神川 晃

III 子どもと家庭

*増山 均 早稲田大学名誉教授
・児童虐待を引き起こさないために 早稲田大学 山田恵子
・父子家庭の孤立と孤独を乗り越える 北海道文教大学 吉岡亜希子
・母親たちが創る地球市民ようちえん 認定NPO「花の森こども園」 葭田あきこ
・市民によるネットワーク「こどもみらい会議」 市川子どもわくわくネットワーク 渡慶次康子
トピック 「逃げ恥」を学問する 諸見里 咲

IV 子どもと福祉

*義基祐正 名寄市立大学
・子どもの権利と児童相談所 明星大学 川松 亮
・矛盾だらけの企業主導型保育事業 京都華頂大学 藤井伸生
・広がる入学前支給！就学援助費 元公立小学校事務職員 植松直人
・支援が届きづらいヤングケアラーたち 白梅学園大学 牧野晶哲
トピック 社会的擁護退所者を独りにさせない 森川雄基

V 子どもと司法

*佐々木光明 神戸学院大学
・一歩踏み込んだ「深刻な懸念」 全司法労働組合 伊藤由紀夫
・少年法はどうつくられるのか 日弁連・法制審幹事 山下幸夫
・対話を重視する修復的司法 東京学芸大学 宿谷晃弘
トピック 国連子どもの権利委員会でロビーイング 岡本潤子

VI 子どもと学校

*田沼 朗 身延山大学
・奄美市立中学校「指導死」事件の深層 弁護士 柳 優香
・子どもの権利と運動部活動 関西大学 神谷 拓
・核兵器禁止条約を学ぶ高校生 幡多高校生ゼミナール顧問 山下正寿
トピック 給食から学ぶこと 浦川彩香

VII 子どもと地域

*阿比留久美 早稲田大学
・子ども・若者の生活世界と社会権 こどもNPO 本岡 恵
・外国にルーツを持つ子どもたちを支える COLORS浜松国際交流協会 宮城ユキミ
・オリパラ・ボランティアと地域 日本女子大学 田中雅文
・学童保育の規準緩和をめぐる動向 全国学童保育連絡協議会 佐藤愛子
トピック 「万引き家族」が描く地域と子ども 村岡ゆりあ

VIII 子どもと文化

*片岡輝 元東京家政大学学長
・来訪神がユネスコ無形文化遺産に登録 日本工業大学 板橋春夫
・「ちびまる子ちゃん」変わっても変わらないもの 東京未来大学 佐々木由美子
・愛国家と愛国歌 RADWIMPS「HINOMARU」を手がかりに 阪南大学 坪井兵輔
トピック 子どもたちが「プリキュアになる」とき 中山勘太郎

IX 子どもとメディア

*成田弘子 子どものネットリスク教育研究会副代表
・スマホ長時間利用が脳に与える影響 東北大学 松崎 泰・川島隆太
・子どもたちの自主的活動でスマホ・ネット対策 子どものネットリスク教育研究会副代表 本間史祥
トピック スマホ長時間使用と急性内斜視 ウッド一美

X 子どもと環境

*野田 恵 東京農工大学等非常勤講師
・国連子どもの権利委員会とSDGs 子どもの権利条約ネットワーク 平野裕二
・福島の子どもの野外で遊ぶ権利 研究会「原発事故後の福島を考える」 小松淳一
・気候変動対策の強化を求める若者たち CASA 土田道代
トピック 三川公園プロジェクト 二宮咲子

災害後を生きる子どもたち

*吉川恭平 石巻市子どもセンターらいつ
・熊本被災地：子どもたちの声や子育て世帯への調査から セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン 田代光恵
・震災伝承に取り組む若者たち 3.11メモリアルネットワーク 永沼悠斗
・子どもの居場所を取り戻せ！ にじいるクレヨン 柴田滋紀
トピック 被災自治体の子ども支援 吉川恭平

●追悼 大田堯先生
①日本子どもを守る会における足跡とメッセージ 日本子どもを守る会副会長 増山 均
②何を学び、何を引き継ぐか 子ども白書2019編集委員長 森本 扶

前川喜平さん インタビュー

学校は子どもを「権利者」として見ているか
子どもの権利条約と教育行政

カラー綴じ込み：子ども生活関連年表(2018年4月～2019年3月)